

「南北国交正常化が進んだ場合の東アジア未来予想図」

前回に続き、朝鮮半島の終戦協定締結と非核化、南北国交正常化が順調に進んだ場合の東アジア情勢を予想してみる。

続は日本・台湾・フィリピン・インドネシア等に阻まれている。大洋と言っても、もともと太平洋にしか接続していない。中国が超大国戦略として「一带一路」を唱えるのは、欧州までのユーラシア経済を中国に取り込み、インドシナ半島を超えてインド洋への接続を図るものだ。しかし欧州への陸路は遠く、道中は天然資源しか経済資源の乏しい地域が広がる。またインド洋への接続も、長く険しい陸路の先だ。当然、東南シナ海を固め、更に太平洋への支配拡大こそ内心の本命だろうが、そこそアメリカのシーレーンと対峙するため簡単に戦略表明出来ない。

期的な構想を打ち出した。これは中国の海洋覇権を強力に牽制する構想であり、「TPP」「日欧EPA」等を次々と繰り出す日本は、中国にとって非常に小賢しく目障りな国だ。日本が大人しくなれば、中国の覇権伸張はずっとスムーズに進むはずだ。だからこそ中国は、日本を懐柔軟化させることと、地域から孤立させることとの両面作戦で日本と対峙することとなる。

クに晒され続ける。日本はかろうじてまだアジアにおける単独リーダーシップを発揮し得るが、今後ますますアメリカの後ろ盾無くしてアジアでのリーダーシップが取りにくくなる。日本はアメリカの信頼と協力をいかに得続けるかが、基本的に重要だ。しかしもし今後アメリカの国力が衰微し、インド洋までの展開を断念し、太平洋を中国と分割管理するところまで後退する場合、日本は孤立を避けるため、中国の覇権を積極的に入れなければならない。だが、今後のインドASEANの発展や中国の高齢化等、変数が多く、未来予想は困難だ。各変数毎の対応を明確にし、孤立を回避するのが日本の基本戦略だ。

非核化した朝鮮半島では、在韓米軍は相当に規模縮小する。核兵器やICBMが放棄されても中距離弾道ミサイルは放棄されないから、日本のミサイル防衛強化方針に変更は無い。アメリカ合衆国の太平洋・インド洋展開能力は在日米軍基地と環インド洋の同盟国が担っている。もちろんアメリカは大西洋の展開能力も保持し、世界の全ての大洋に展開可能であり、貿易の生命線であるシーレーンを確保している。

中国は今後、アメリカの覇権に挑戦する国となるが、中国の海は黄海・東シナ海・南シナ海しかなく、大洋との接

も生命線であり、安倍総理は、日米豪印とASEANを巻き込んだ「自由で開かれたインド太平洋戦略」という画

日本は少子高齢人口減少や産業競争力の低下で、長期トレントで国力は衰微してゆく。環太平洋地域における日本の影響力も相対的に衰微する。アメリカも中国との直接関係を強化し、日本の存在意義は薄れてゆく。長期的に日本は、中国と朝鮮半島から疎まれ、アメリカから軽視され、東アジアで孤立するリス

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net